

## 砺波市新庁舎整備基本計画(案)に対する意見募集のまとめ

### 1 実施期間

令和7年10月30日(木)から11月27日(木)まで

### 2 御意見をいただいた人数及び項目数

4名 11項目

### 3 御意見の内容

(1) 内訳	災害時の対応	2項目	利用者への配慮	4項目
	執務環境	1項目	庁舎の配置計画	1項目
	庁舎の活用	1項目	現庁舎跡地対策	1項目
	全体的表記	1項目		

#### (2) 内容

頁	項 目	意 見 の 概 要	市 の 考 え 方
6	災害対応時のエネルギー対応	創エネルギーを増やすため、駐車場を有効活用し、垂直太陽光パネルの設置を求めたい。  来庁者や公用車用にEV充電器の充実を図るとともに、BCP対策としてV2Bの導入を検討いただきたい。	垂直太陽光パネルの設置により、周辺環境との調和や冬季の機械除雪による駐車場の確保に支障を来さないかなどを含め検討します。  来庁者や公用車用の充電器は予定しているものの、V2Bシステムの導入に当たっては、費用対効果を含め検討します。
15	多様な利用者への配慮	庁舎敷地内への市営バスの乗り入れを検討するだけでなく、車寄せのある場所へのバス及びチョイソコとなみ乗降場の設置をぜひ検討ください。	チョイソコとなみの停留所は、現庁舎引き続いて新庁舎に設置します。
16	アプローチへの配慮	「高齢者・障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」等では、駐車場をもつ施設は、駐車スペースの一部を屋根付きの障がい者用駐車スペースにすることが望ましいとされており、屋根付き又は庇がついている写真に入れ替えたほうがよいのではないですか。	優先駐車場の一部に庇を設けることとしており、わかりやすい写真の入替えを検討します。
17	わかりやすさへの配慮	高齢者や認知症の方は、目線も下向きになってしまいます。また、車いす使用者も健常者と比べると目線が低くなり、このような方のためのサインは、移動をスムーズにするうえで重要なものであることから、目線に合わせたサインとする旨の記載いただきたい。 具体的には、天井からの吊り下げサインだけでなく、ドア、壁、床への表示を基本とします。 また、高齢者は加齢によって色の識別がしにくくなる傾向にあることから、空間認識しやすいように壁・扉と床にコントラストをつけるようにしてください。	ユニバーサルデザインを基本としていることから、あらゆる来庁者への配慮に努めます。

		<p>高齢者の中には、2階建てという低層の建物であっても、今、自分は何階にいるのかわからなくなってしまう方もいるし、これまでも見受けています。各フロアの設備・部屋(エレベーター、トイレ、階段、執務室等)の基本的レイアウトが同じになればなおのことです。</p> <p>したがって、階ごとの「フロアイメージカラー」(1階は緑色、2階はピンク色というように)にしてください。フロアごとに異なるカラーを使うことで、「ここは○階だ」と視覚的に認識しやすくなり、いわゆる迷子になることを防ぐ効果が期待できます。</p> <p>なお、色覚判断がしやすい色の選択をお願いします。</p>	<p>床材の色彩については、検討します。</p>
25	効率的かつ創造的な働き方	<p>「ABW」とあるが、その説明がわからない。</p>	<p>22ページからの『ア 執務環境』の続きであり、説明を表記していますが、巻末に用語集を追加します。</p>
41	新庁舎の配置図	<p>水辺にはストレスを軽減する、「無」とはいわずとも「静寂」にする効果があり、気持ちをゆったりさせてくれます。また、近年の猛暑のなかにおいては涼しさを醸し出してくれます。</p> <p>配置図を見る限りでは、四角い池のようなものがありますが、四角く人工的であり、自然的なやすらぎを感じさせません。</p> <p>そういったことから、既存の池を活用できないものでしょうか。</p>	<p>埋蔵文化財包蔵地を避けた庁舎配置を計画しているため、現在の池を活用できませんが、水辺空間の創出を予定しています。</p>
43	庁舎の活用	<p>美術作品の発表の場所があると良いと思います。</p>	<p>効率性を基本に平面構成を計画しており、多用途活用スペースの限られたエリアで活用方法を検討します。</p>
—	現庁舎跡地	<p>現在の庁舎敷地や建物の活用については、どのように処理をするのか。また、解体や敷地活用にあたっては、財政負担の軽減に努めていただきたい。</p>	<p>現庁舎の跡地活用については、商業施設などの事業用地や住宅地としての利活用などを含めて検討を進めており、そのことを『9 今後の進め方』に加筆します。</p>
—	全体的表記	<p>全体的にカタカナ、アルファベット表記が多く、わかりにくく感じます。別にカタカナ、アルファベットを使っはいけないということではありませんが、市民のみなさんが使う庁舎整備のための計画ということであれば、そのカタカナの意味するところが市民のみなさんに容易に理解してもらえる必要があります。</p> <p>また、脚注を設けるといっても、改めて脚注で説明する必要があるのなら、初めからそのよう</p>	<p>本計画は、今後、基本設計等を経て、新庁舎を整備するために策定するものでありますが、昨今、新たな用語等として発出し多用されているものです。</p> <p>全ての脚注については、巻末に用語集にまとめ整理します。</p>

		<p>に記載すれば済むことではないでしょうか。</p> <p>また、脚注の説明があったとしても、同じ言葉が後のページに再掲されて「どういう意味だったかな？」となることが多々あります。</p> <p>そういったことから、極力日本語での記載をお願いするものです。</p>	
--	--	---	--

※E V (Electric Vehicle)

電気自動車

※B C P (Business Continuity Planning)

自然災害や事故などの緊急事態が発生した際に、事業の中断を最小限に抑え、早期に普及させるための計画

※V 2 B (Vehicle-to-Building)

E Vのバッテリーから建物へ電力を供給したり、逆に建物からE Vへの充電を可能にする仕組み

※A B W (Activity Based Working)

業務の内容や目的に応じて働く場所を多様な環境から選べるワークスタイル